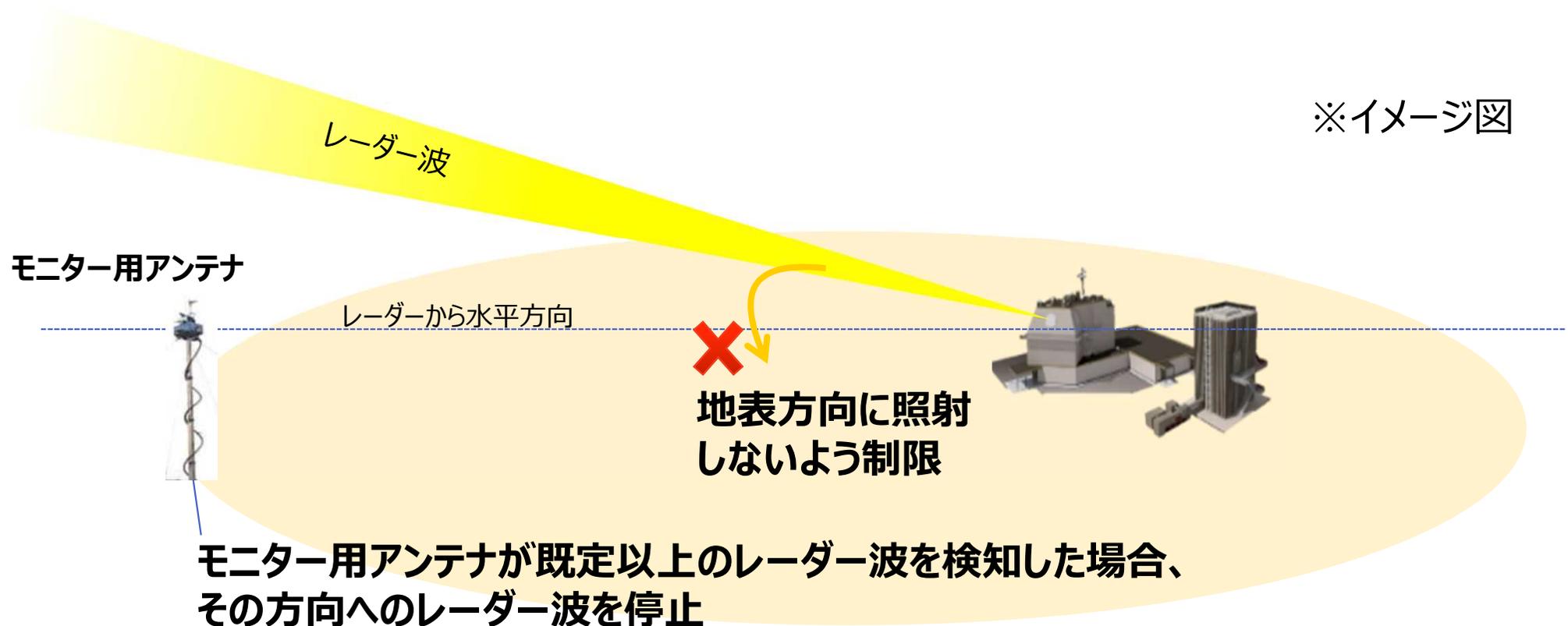


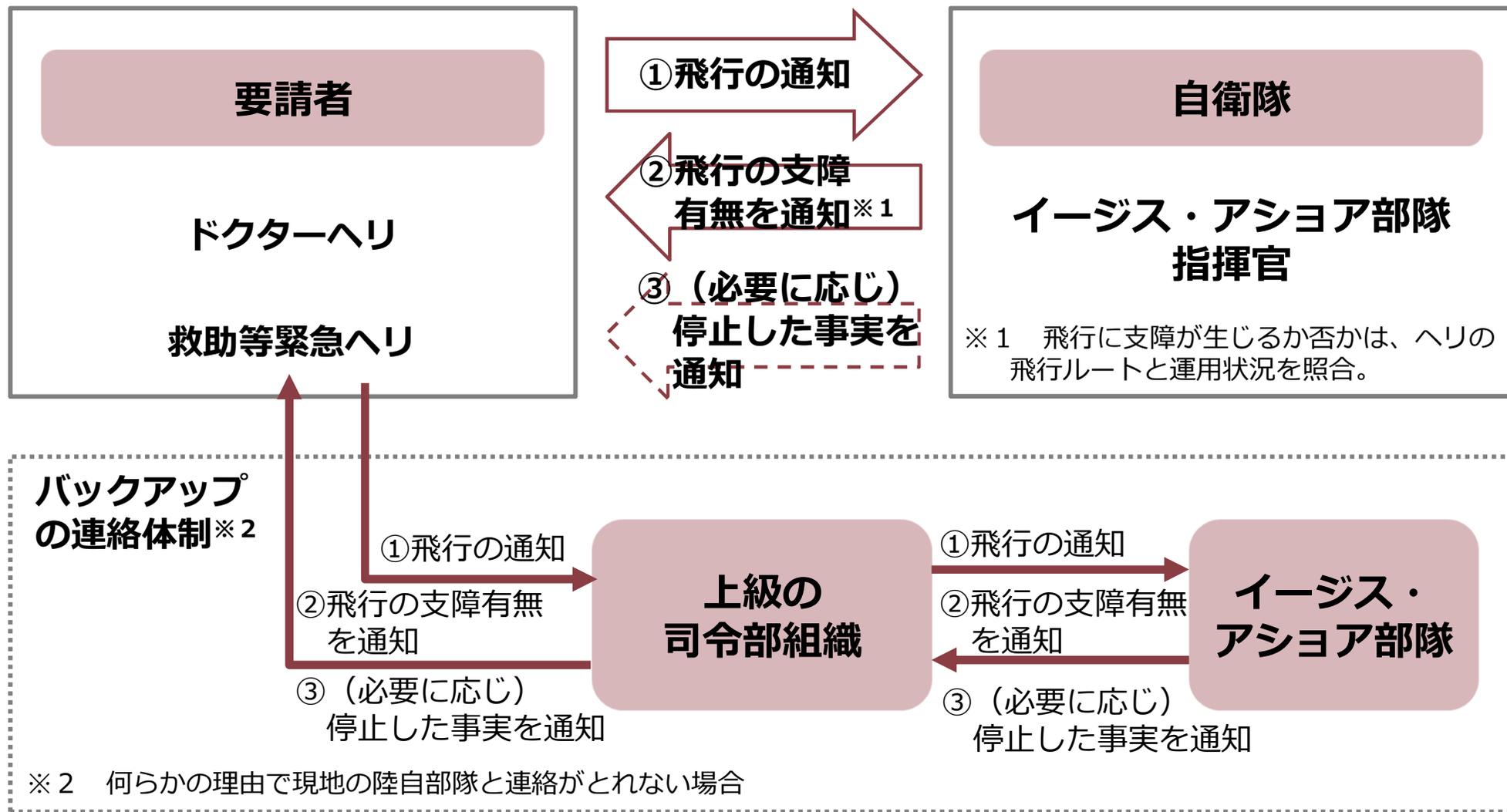
■ イージス・アショアのレーダーのメインビームが、万が一にも地表へ照射されないよう、事故や操作ミスを防ぐ機能を付与します。

- ✓ 電波を照射できる方向をあらかじめ設定（制限）する機能
- ✓ 万が一、地表方向にメインビームが照射されるような操作が行われた場合に、電波照射が停止する機能



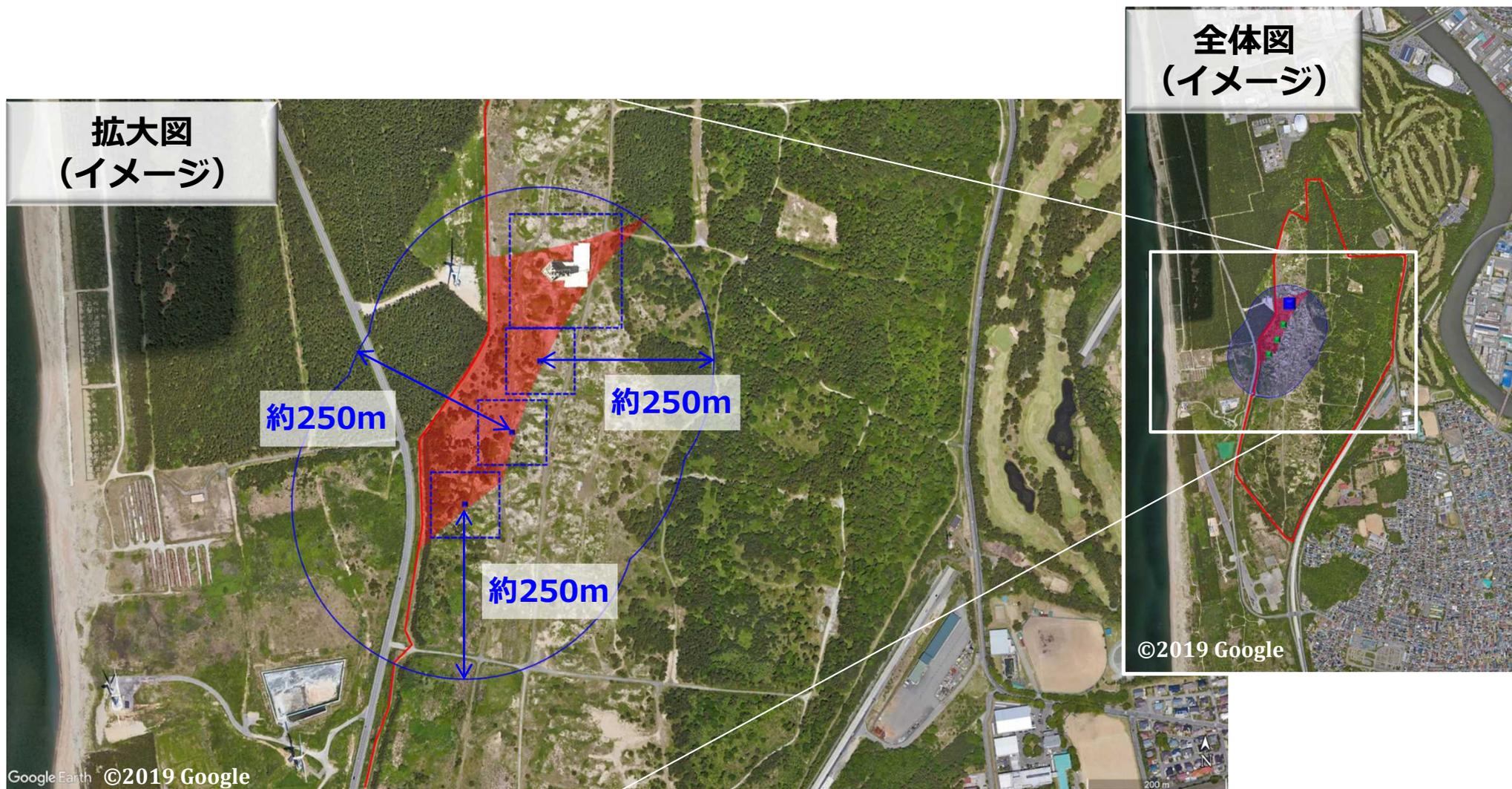
2. 防衛省の検討結果：ドクターヘリ等の運航に影響を与えないための措置

- 平素、ドクターヘリなど緊急ヘリの運航に影響はありません。今後、連絡調整の手続きを定めることとし、関係者の皆様と調整させていただきます。



2. 防衛省の検討結果：VLS関係の措置（保安距離の確保）

- イージス・アショアのVLSの保安距離は半径約250mに設定し、一般の方が立ち入らないよう制限します。

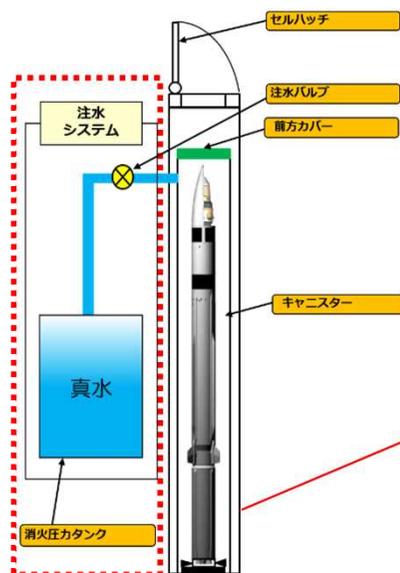


※ VLSは近接した配置となりますが、イージス艦では密着させて搭載されていることから、安全性に問題はありません。

2. 防衛省の検討結果：VLS関係の措置（事故や操作ミス防止機能）

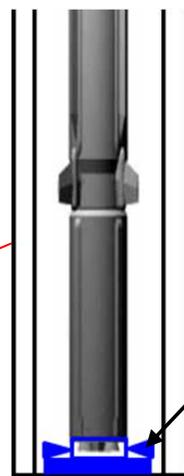
- 意図せず迎撃ミサイルが射出されたり、意図せずミサイルの燃料が燃焼しないよう、次の措置を講じ、VLSを安全に運用します。

✓ 消火装置を設置 (イージス艦と同じ装置)



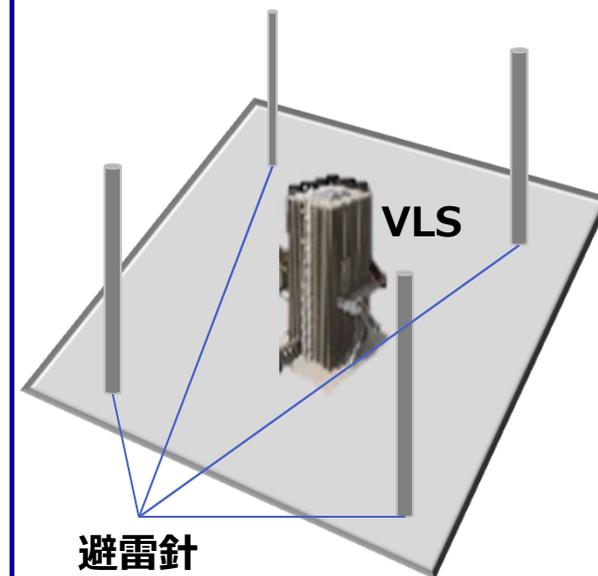
VLS内でミサイルが固定された状態でブースター等が燃焼したとしても、他のミサイルに影響を与えません

✓ 固定器具を設置 (イージス艦と同じ装置)



VLS内で意図せずブースター等が燃焼した場合でも、ミサイルはVLSの外に射出されません

✓ 避雷針の設置



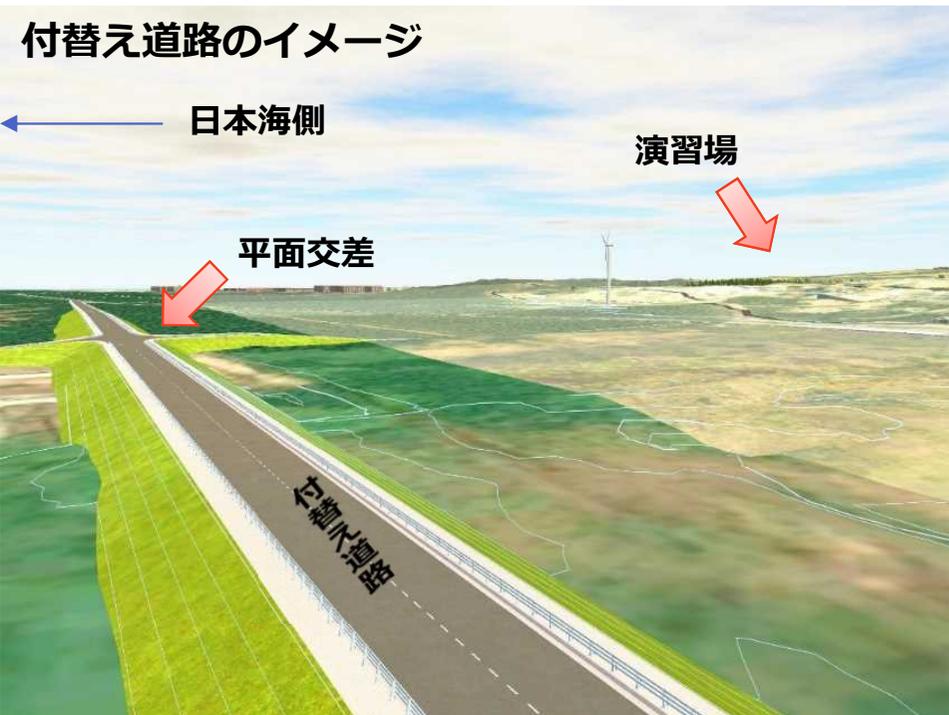
落雷時においてもVLSやミサイルに通電しないようVLSの周囲に避雷針を設置します

2. 防衛省の検討結果：その他必要となる措置（県有地等の取得と県道の付替え）

- 安全のため、①県道を西側に付け替えるとともに、②演習場西側の県有地等を取得します。



- ✓ レーダー・VLSの保安距離の中を一般道路が通る状況を解消できる
- ✓ 演習場西側からの脅威に対する防護、警備がより行いやすくなる

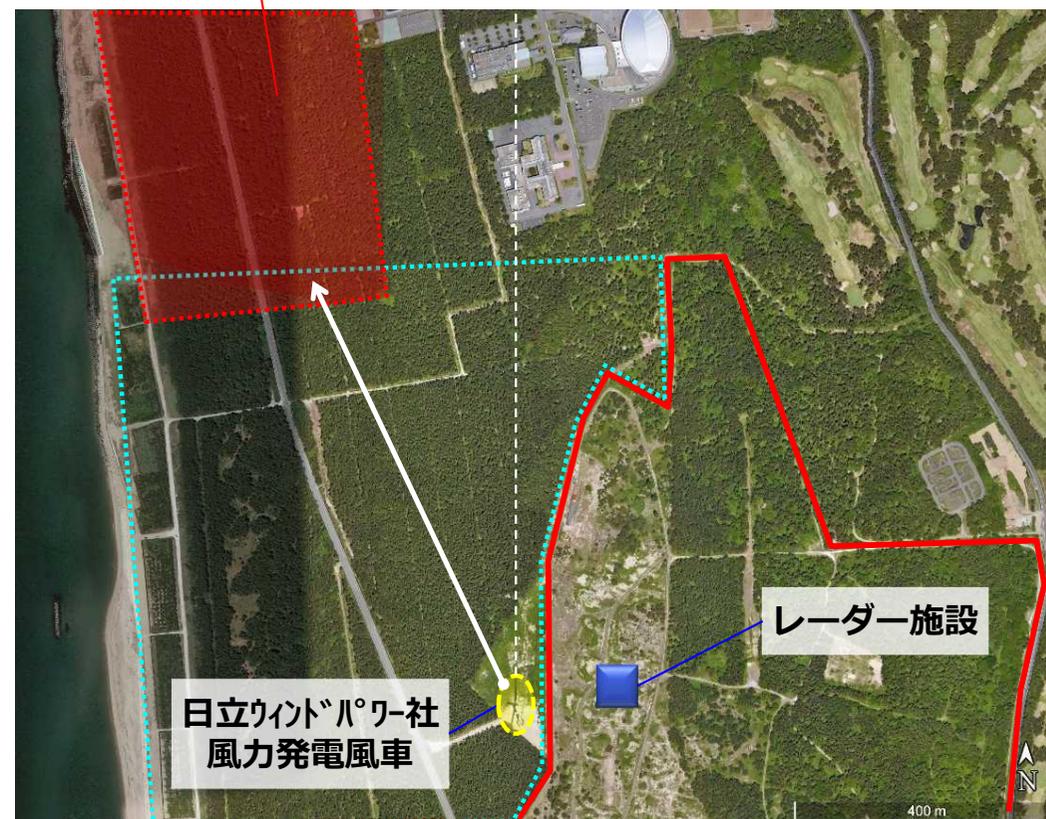


2. 防衛省の検討結果：その他必要となる措置（風力発電風車の移転）

- レーダーと風車の安全な運用のため、レーダー施設のすぐ近傍に位置する風車は、移転させていただく方向で、県・企業との調整を進めてまいります。

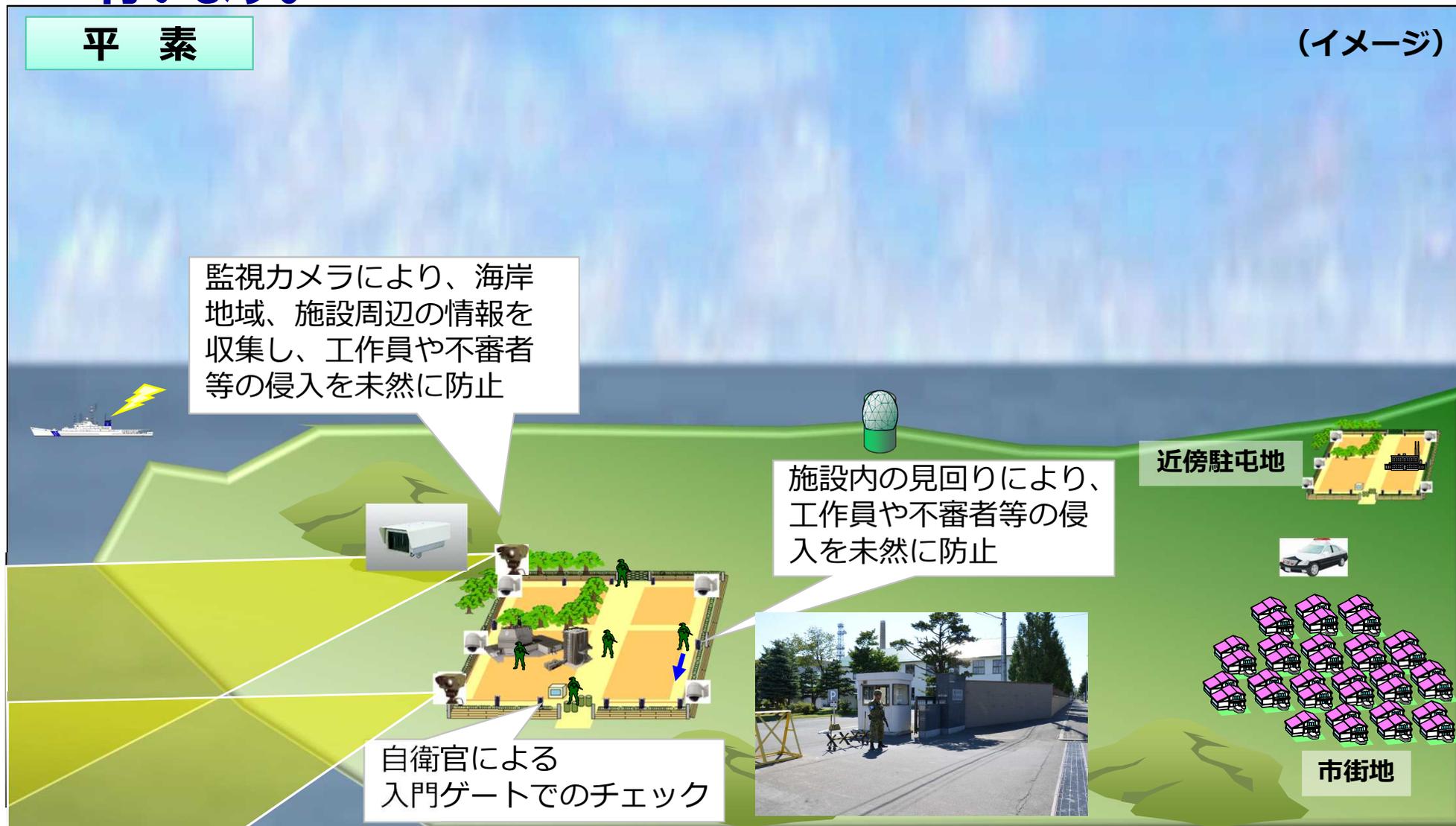


風車の移設先候補となる
区域のイメージ



2. 防衛省の検討結果：警備態勢の構築（平素）

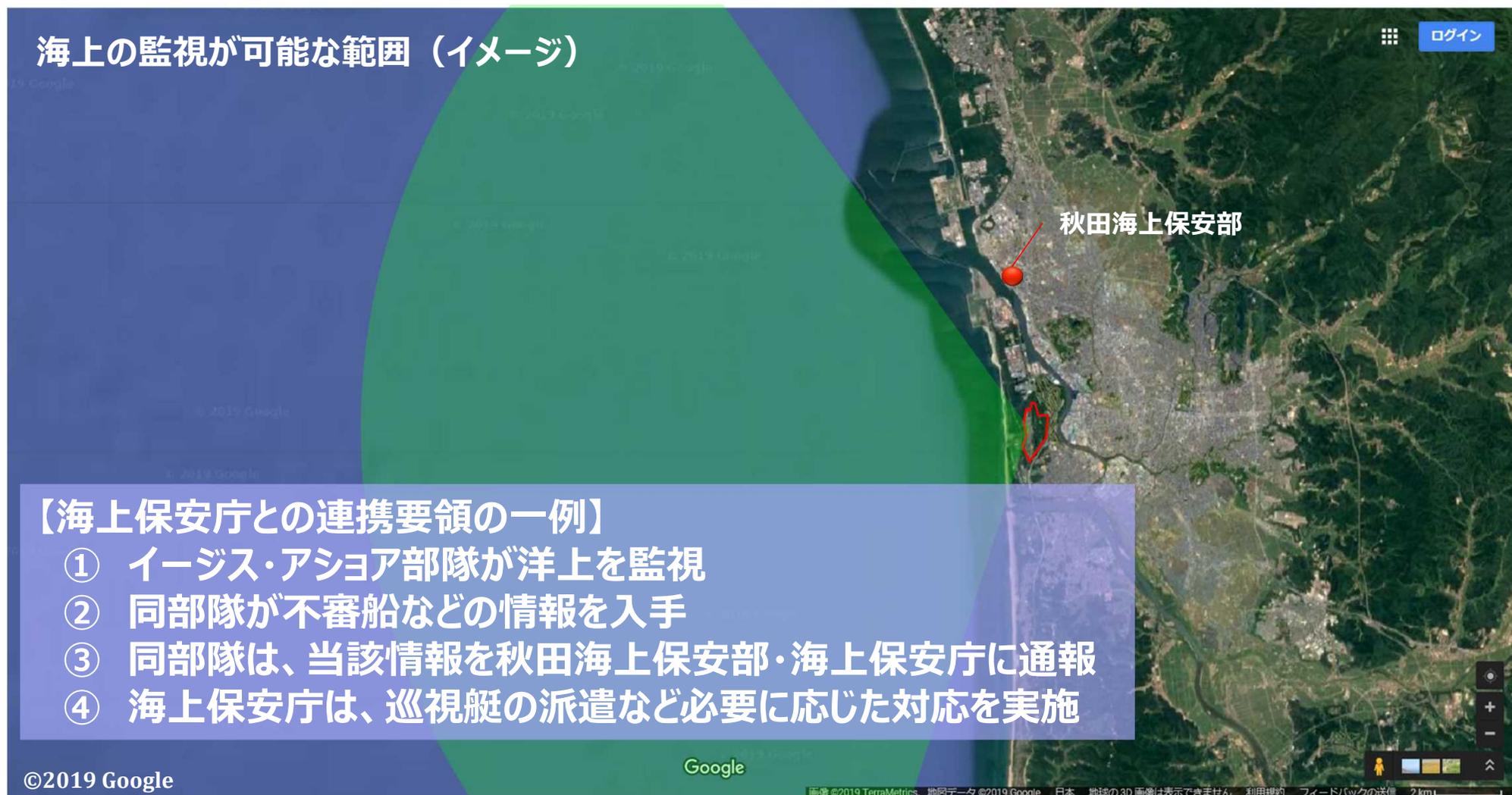
- 平素から、テロ・破壊工作等を未然に防ぐため、普通科部隊を中心とした警備部隊を配置し、警察・海上保安庁とも情報共有を行います。



2. 防衛省の検討結果：警備態勢の構築（海上の監視）

- 「広域監視装置」を設置し、海岸から広い範囲を、24時間365日、監視します。

⇒ 海上保安庁との連携態勢を強化することができます。



2. 防衛省の検討結果：警備態勢の構築（事態緊迫時）

■ 事態に応じて、近傍の駐屯地から増援部隊を派遣し、テロや工作員の破壊活動を未然に防ぎます。



2. 防衛省の検討結果：警備態勢の構築（事態緊迫時）

- 事態に応じて、陸自・空自の対空防護部隊や、海自護衛艦・哨戒機、空自戦闘機を展開し、飛来する脅威から、周辺地域を防護します。



2. 防衛省の検討結果：警備態勢の構築（セキュリティ対策）

- 敷地への作業員等の侵入を防ぐため、柵、監視カメラ、警備センサを設置し、他の基地等よりもセキュリティを強化します。



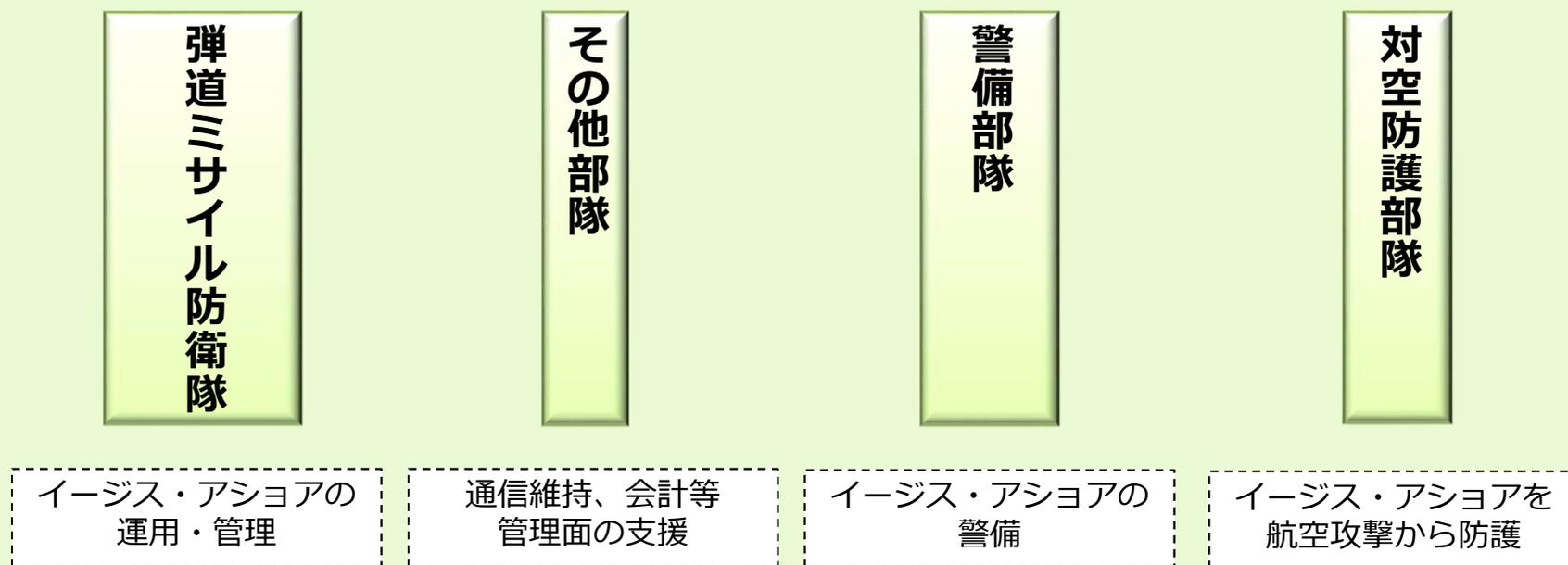
2. 防衛省の検討結果：警備態勢の構築（配備する部隊）

- 新屋には、イージス・アショアを運用する部隊だけでなく、周辺地域を防護する警備部隊も配置します。

配置する自衛官の人数：計 約250名

※ 今後の細部検討により、変更する可能性があります。

新屋に配置される部隊



2. 防衛省の検討結果：警備態勢の構築（配備する装備品等）

■ 確実な防護のため、警戒監視、進入阻止、対地・対空脅威への対処を可能とする装備品等を、平素から配置します。

警戒監視器材の一例（イメージ）



海岸地域、施設周辺の情報収集し、作業員や不審者等の侵入を未然に防止

侵入阻止器材の一例（イメージ）



不審者、不審車両の侵入を防止するため、施設の外周を柵で囲むとともに、門にはボラード、ブロック等を配置

対処（対地）装備の一例（イメージ）



迅速な対処のため、軽装甲機動車を使用するとともに、脅威に応じた適切な装備品の使用により、作業員等の脅威へ対処

対処（対空）装備等の一例（イメージ）



飛来する脅威に対し、効果的に対処するため、誘導弾等を保持するとともに、ドローン等新たな脅威に対処し得るよう器材を保持

3. イーゼス・アシヨアの必要性等

- 弾道ミサイルの発射兆候を事前に把握することは、近年、ますます困難になってきています。

かつて

<固定式のサイト>



近年

<移動式発射台 (TEL) による発射能力>



移動可能
任意の地点から発射可能
⇒ 見つかりにくい

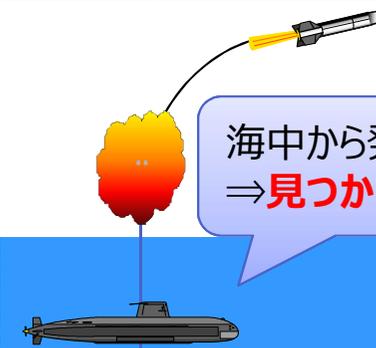


発射イメージ

<潜水艦発射型の弾道ミサイル>



海中から発射
⇒ 見つかりにくい



発射イメージ